

# 第 12 回世界スカウトフォーラム

## 派遣報告書

平成 26 年 8 月 2 日~17 日



12<sup>TH</sup> WORLD SCOUT  
YOUTH FORUM  
FORUM DES JEUNES  
DU SCOUTISME MONDIAL  
SLOVENIA 2014

-日本代表団-

小栗悠貴 笠原俊祐  
木村直登 中嶋路央

# 目次

- 派遣概要
- 派遣日程
- 第12回世界スカウトユースフォーラム
- インターイベント
- 第40回世界スカウト会議
- 派遣員所感
- 提言
- おわりに

## 派遣概要

名称 第12回世界スカウトユースフォーラム派遣

期間 平成26年8月2日（土）～17日（日） 16日間

場所 スロベニア共和国 ログラ（フォーラム）  
リュブリャナ（世界会議）



目的 日本のスカウトの代表としてこのユースフォーラムで世界の仲間と討議をすることによって、青年スカウトとして必要な資質の向上を図る。また参加各国スカウトとの親善交歓により国際理解と友情を深める。フォーラム後は8月11日から15日までリュブリャナで開催される第40回世界スカウト会議日本代表団の青年代表として参加し、2015年に日本で開催する第23回世界スカウトジャンボリーのプロモーション活動等を行う。

## 派遣員

|                                                                                     |                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|    | <p>小栗 悠貴</p> <p>正代表<br/>愛知連盟 半田第 1 団ローバースカウト隊</p>    |
|    | <p>笠原 俊祐</p> <p>正代表<br/>奈良県連盟 生駒第 10 団ローバースカウト隊</p>  |
|   | <p>木村 直登</p> <p>オブザーバー<br/>東京連盟 昭島第 1 団ローバースカウト隊</p> |
|  | <p>中嶋 路央</p> <p>オブザーバー<br/>愛知連盟 豊田第 6 団ローバースカウト隊</p> |

## 派遣日程

| 日付   | 場所     | 内容                                                   |
|------|--------|------------------------------------------------------|
| 8/2  | BS 会館  | 午後：集合、最終準備                                           |
| 8/3  | 羽田空港   | 未明：フランクフルトへ向け出発。                                     |
|      | 機内     | 午前：フランクフルト経由でリュブリャナ着                                 |
|      | リュブリャナ | 午後：リュブリャナから、バスでログラに移動                                |
| 8/4  | ログラ    | 午前：基本事項確認、International Team に分かれた。<br>チーム毎に野外セッション。 |
|      |        | 午後：各地域の特色、問題等についてのセッション、開会式。                         |
| 8/5  |        | 午前：セッション「社会が変えるスカウト」<br>ユースアドバイザー候補者演説               |
|      |        | 午後：セッション「スカウトが変える社会」<br>IC[1](アジア太平洋地域)、スロヴェニアンナイト   |
| 8/6  |        | 午前：ユースアドバイザー選挙、セッション「WOSM の三ヶ年計画」 トレーニングセッション1       |
|      |        | 午後：トレーニングセッション2、IC(インターアメリカ)、草案について                  |
| 8/7  |        | 午前：セッション「ポテンシャルの開放」、IC(ユーラシア)、草案採決                   |
|      |        | 午後：草案採決、IC(アフリカ)、閉会式                                 |
| 8/8  | ピラン    | ピランに移動。8/10 までインターイベントに参加。                           |
| 8/10 | リュブリャナ | 世界スカウト会議代表団と合流。世界スカウト会議に参加。                          |
| 8/16 | リュブリャナ | リュブリャナ出発。                                            |
| 8/17 | 羽田     | フランクフルト経由で羽田に到着。                                     |

[1] IC：(インターナショナルコーヒーブレイクの略称)

# 第 12 回世界スカウトユースフォーラム

第 12 回世界スカウトユースフォーラムのテーマは、"One tree, many branches"であり、これは、私たちのスカウト運動の強みである、多様性の中の結束を表しています。参加者は、以下の 4 つの主要なテーマのもと、有意義な議論を交わしました：  
**Society Changing Scouts, Scouting Changing Society, Scouting Changing Individuals, and Individuals Changing Scouting**。これらのテーマで参加者はスカウト運動とコミュニティーや個人に与えるその影響について話し合い、さらに、素早く移り変わるユース年代のニーズを満たす上でのスカウト運動の改善点の議論もしました。

今回のフォーラムでは、参加者は 3 カ年計画への 13 の修正案、3 カ年計画、2 つの決議案と声明文に批准するよう求める決議を提出しました。これらは全て私たちの運動の未来を考える上で貴重なユースの意見となりました。

以下に「12<sup>TH</sup> WORLD SCOUT YOUTH FORUM REPORT」よりフォーラムの内容を抜粋しました。

## GENERAL INFORMATION

### About the Participants

The 12th World Scout Youth Forum was held at Rogla, Slovenia, from 4th – 7th August 2014. A total of 176 participants were present (from 72 different countries), making this the most attended ever World Scout Youth Forum.

### Regional Reports

During the Forum, the regional youth advisors and representatives had the opportunity to address regional matters, discuss goals and plans and gave the participants an excellent insight into the weaknesses and strengths of Scouting in their regions. The appendix contains a summary of the main needs, success stories and challenges of young people from each WOSM region. This formal experience was complimented by the international coffee breaks, where participants had the opportunity to explore the cultures and traditions of each region.

### International Teams

A new working method was applied during this World Scout Youth Forum, by which delegates and observers worked, throughout the Forum, in international teams, not in their national delegation. The Planning Committee assigned the teams to each of them, reflect a balance in age, gender, region and experience, creating a learning environment based on intercultural dialogue and cooperation.

### Online Communication

Several channels of online communication were used in facilitating communication with and among participants before, during and after the Forum. In particular, the Youth Wall (sub-page on scout.org and Facebook page), a dedicated page for communication within WOSM about youth involvement and participation was formed, as well as a closed Facebook group.

Youth Wall has officially replaced ScOutPost, and can be visited here: [scout.org/youthwall](http://scout.org/youthwall) and here: [facebook.com/scoutsyouthwall](https://facebook.com/scoutsyouthwall). Additionally, the Planning Team created an e-learning tool, called COMPASS, which aimed at preparing participants for the Forum and its working methods.

### **Election of the Youth Advisors to the World Scout Committee**

The following six delegates were elected by the 12th World Scout Youth Forum to serve as Youth Advisors to the World Scout Committee for the next triennium (2014-2017):

Mr. Montaser Hosny Abdelmaged (Egypt)  
Mr. Luis Antonio Aguayo Miranda (Mexico)  
Mr. J  r  my Apert (France)  
Ms. M  ire Fitzgerald (Ireland)  
Ms. Daiana Neil (Argentina)  
Mr. Maeed Mohamed Zahir (Maldives)

The Youth Advisors elected Mr. J  r  my Apert as the Chairperson of the 13th World Scout Youth Forum and the WSYF Planning Committee.

# 全体討議と各分科会の概要



## ウェルカムセッション

全体の説明等

## インターナショナルチーム

二十の動物のチームに分かれ、作業。この日は主にアイスブレイキングがメイン。屋外にてハイキング・ゲーム等をした。

### ・ What are our Regions Doing?

スカウト関係のみならず、各地域で今起こっている問題などの紹介があった。

### ・ Blogging の説明

**Blogging** とは **International Team** 毎に毎日その日の感想等を取りまとめ、インターネット上で共有すること。フォーラム期間中は毎日夕方にグループで集まり、その日の活動をまとめた。

### ・ Opening Ceremony

野外の特設テントにてセレモニーを行った。スコット・ティア氏（世界事務総長）らによるスピーチもあった。

8/5

### ・ Society changes Scouts : Youth Global Trends

**Health・Education・Society Politics Security・Economy** の4つのグループに分かれ、各国における問題点等を共有。最初は **International Team** にて討議。その後テーマ毎のグループに分かれ討論。筆者は **Education** のグループに配属されたものの、**International Coffee Break** の片付けに時間がかかり、参加できなかった。

### ・ International Coffee Break (APR)

日本のブースを出し、お茶・和菓子・ジャンボリーの紹介等を行った。

### ・ Youth Advisors プレゼンテーション

ひとり 3 分ほどの持ち時間。

- **Scouting changes Society**

一部の NSO がブースを特設し、その国におけるユースの活動およびプロジェクトを紹介。個人的に興味深かったのは、フランスのプロジェクト。留学生でもスカウティングを続けられるようなプロジェクト。どうやら日本も加盟国らしいが、これはあまり認知されていないように思われる。各国の特色がプロジェクトに大きく反映されていたように思う。

- 決議案の書き方についての説明

今回のユースフォーラムは前回のような各国毎にプロジェクト及び意見を提示するようなものではなく、WOSM の決議文(?) の修正がメインだった。

- スロベニアンナイト

スロベニアの紹介から始まり、ダンスなどが続いた。

8/6

- **Youth Advisors 選挙**

各国が投票用紙に記入し、選挙。6 人の Youth Advisors を選ぶ。

- WOSM のこれからの 3 年間における展望の紹介

- **Youth Advisors 選挙結果**

アフリカ地域以外からはそれぞれ 1 人以上の候補が当選した。APR(アジアパシフィック地域)からは 1 名選出された。

- **What Scouting does for individuals**

前日にいくつかのテーマから自分の参加したいものをあらかじめ選び、それに参加。筆者は午前中のセッションで Skills for Life、午後のセッションで Leadership(?) を選択。WOSM 職員がファシリテーター。

- **Skills for Life**

ポストイットを使用する KG 方式で議論を展開。参加者を 3 つのグループに分割。まず、提示されたリストから我々の生活において最も重要な要素を 5 つ抽出。筆者のグループは Freedom, Family, Environment, Education, Community を選択。その後、Die You Know? をコンセプトとした映像を視聴し、現世界において秒単位で生じている問題等を学習。この映像を参考資料のような役割であったが、とても有益だった。続いて、Skills for Life の定義を確認。WHO などの様々な機関における定義を確認した後、グループ毎にオリジナルの定義を作成。つづいて、Skills for Life の観点から最も重要なスカウト活動を選択。筆者のグループはハイキングを選択した。ハイキングには目的地の選択、読図、周囲の分析等、様々な要素が含まれているからだ。その後、最初にグループ毎に提示した生活において最も重要な 5 つの要素に再び着目し、それらに関連するスカウティングの技能および要素を分析した。



- Leadership

そもそもリーダーシップとは何であろうかという質問から議論は展開された。筆者は **Decision Making** と回答。その後小グループに分割し、ポストイットにリーダーに求められる要素等を抽出。**Responsibility** 等様々な意見が交換された。つづいて、意見交換の結果をもとに、実際にどうリーダーシップが発揮されるかという分析を行った。**WOSM** の職員により、リーダーシップが発生する際の要素を(**Individual, Purpose, Others**)分割したものが提示され、意見交換によって抽出された資質がどこに分類されるかを分析。その後はグループによるロールプレイング作業を行った。筆者のグループは、「みんなで海水浴に来ている時に一人が溺れてしまった。しかし、周りにライフセーバーがいない。さあどうしよう。」というお題に基づきスタンツを行った。

- "SPEAR" Draft-Resolution Workshop

**International Group** に分かれ、**WOSM** の今後三年間におけるプランに対する **Draft-Resolution**(追加事項)および **Amendment** (修正事項) について意見交換、そしてグループとして提案する内容を集約。筆者のグループは主に **Amendment** に取り組んだ。

- Free Evening with optional activities

運営より、いくつかの **Activity** が提示され、参加者が各自で希望する **Activity** を選択。選択肢としては「**Pool, Gym, Short hike, Sauna, Camp Fire**」が提示された。しかしながら筆者は **Activity** に参加せず中嶋氏と周囲を散策し、フリスビーを楽しんだ。この日の夜は筆者のように **Activity** に参加しない参加者も多くいたように思う。

8/7

- Unlocking Our Potential

世界スカウト委員および教育方針チームの議長である **João Armando Gonçalves** 氏により、スピーチが行われた。我々には皆それぞれに才能がある、というような趣旨であった(要補足)

- Messengers of Peace Presentation

活動内容等の紹介

- **International Team** および各国派遣団により、**Draft-Resolution** と **Amendment** のプレゼン、および討論が行われた。非常に白熱した議論が展開され、タイムスケジュールよりも1時間以上遅くまで議論および投票が行われた。決議結果に関しては別項参照。

- **International Team Time**

フォーラムにおける最後の **International Team** の時間である。フォーラム全体の感想、および改善点に関する意見が交換された。筆者のチームで主に指摘された改善としては、「時間」と「音響設備」が挙げられる。まず、時間に関してであるが、**Draft-Resolution** と **Amendment** の議論のための時間が少なすぎるというものである。時間が少なすぎるため、意見交換も十分に行えなかったのだ。そして、音響設備であるが、こちらもしっかり重要な問題点である。フォーラムで主に使用したメインホールの音響設備があまり良くなかったために、会場後方の座席に着席しているオブザーバー達にプレゼンなどの音声がいまいち届いていなかったのだ。これにより、話の内容を理解できないスカウトが続出してしまった。これは英語力の問題ではなく、設備の問題である。証拠としてネイティブスピーカーでさえ内容を曖昧にしか理解できていなかった。

そして、もうひとつ改善点として参加者の英語力への配慮が挙げられる。この改善点もグループ内で生じたが、他の2つと比べ決定的改善点ではないので参考程度に記しておく。基本的にフォーラムでの英語は日常会話レベルの英語の範疇を超えており、高度な英語力が求められた。そのため、フランス語話者に対しては同時通訳システムが提供されていた。しかし、ここで着目したいのがフランス語のみ提供されていたことである。スペイン語・中国語などより多様な言語の通訳システムが提供されていればより深い議論を行う事ができたのではないだろうか。もちろん費用等の問題もあり、改善するのは困難かもしれない。しかしながら英語を話す速度を遅くするなどの配慮が必要であるとの意見があがった。

### Closing Ceremony

スロベニアスカウトによるスロベニアのソングの紹介から始まった。つづいて、**WOSM** の書記である **Mr.....(要改正)** によってプレゼンが行われた。来年に日本で行われる世界ジャンボリーの紹介もスケジュールの変更により、このセレモニーの中で行われた。それに続きアイスランドで行われる。15<sup>th</sup> **World Scout Moot** の紹介ビデオが放映された。その後、スロベニア連盟および **WOSM** に対して御礼の品が各国スカウトから手渡された。

## フォーラム決議概要

### 「スカウトを変える社会」

社会とスカウトの関係について注目した4つのトピックのうち、最初のものが「スカウトを変える社会」である。フォーラムの2日目に、参加者達は世界情勢について討論し、地域毎の問題解決方法を考えた。国連のアーマッド氏による基本方針演説によって、若者の国際的優遇に目を向け、スカウティングを国連の千年発展計画の成功への貢献に反映していくよう感化された。インターナショナルチームではこ

の演説を反映しいくつかのテーマの問題(経済、教育、健康、社会、政治、セキュリティ)について意見交換をした。この討議の結果は参加者に **WOSM** の三ヶ年計画案(2014-2017)についての意見をもたらし、特に多様性のもとでのユースプログラム、そして異文化間の対話、移民問題、少数派の問題、ジェンダーについて大いに影響をもたらしした。

## 「社会を変えるスカウト」

世界情勢のセッションを引き継ぎ、参加者達は「問題に対する報復」を求められ、スカウトが如何にして社会を変えるか討議した。参加者は自身の **NSO** で行っているプロジェクトについて情報及び意見交換をした。彼らのプロジェクトは幅広い分野(危機への対抗のようなものから、抑制された団体の開放、流動性、結合性、環境教育と持続可能な発展のための国際的連携など)に渡るものであった。これらのトピックはユースアドバイザー候補者によって導入された主な検討問題でもあった。参加者は候補者との対話の機会、そしてこれらの様々なテーマに対する各国で実施可能なアイデアについて、討議する機会を与えられたのである。全体会に戻り、40を超える様々なアイデアが世界地図上に紹介された。それらにはキャンプ、トレーニング、セミナーなどに加え、独創性に富むものもあった。

## 「個々人を変えるスカウト」

このセッションの目的は如何にユースプログラム、そしてスカウト活動が如何に生活、人格に影響を与えるかスカウトに気づかせる事であった。また、参加者に **NSO** のユースプログラムでより注意を払う事が必要とされる情報スキルについて話すよう促す事も目的の一つであった。参加者は以下の内容のトレーニングセッションから一つを選び、参加した。弁護、雇用、生活スキル、コミュニケーション、リーダーシップ、プロジェクトの発展、異文化間の対話、そしてナショナルユースポリシーである。このような多岐にわたる分野のトピックは、参加者に自らの **NSO** で欠けている物は何か、そしてスカウティングの中のどのようなスキルに対してより関心が払われるべきかを深く調べる機会を提供した。結果的に、三箇年計画に対して提示された改正案は、**NSO** の「スカウティングスキルを職業において使用できる能力に形式化することのできるツール」を発展させるためのサポートを要求するものとなった。

## 「スカウトを変える個々人」

参加者が最初の何日間か「我々の活動」「我々の団体」について討議したように、フォーラム最終日は、「多様な世代によって構築される未来における我々の活動における協力を強化するために極めて重要な異文化間の対話」についての導入セッションを通して、「我々の未来」について焦点をあてた。テーマの「スカウトを変える個々人」のもと、**WSYF** の参加者は **WOSM** の今後の方針について彼らが考える

方向性を共有するよう促された。協議事項は、スカウティングそして三カ年計画の提議に対する新しい戦略のための世界スカウト委員の方針に焦点を当てたものとなったが、参加者は決議草案もしくは彼らの声明としてフォーラムの宣言に対する提案を提出することもできた。創造的活動およびインターナショナルチームでの交流を通して、**WSYF** の参加者達は三カ年計画について情報を得て、彼らのニーズをよりよく反映する為の変革について考える時間を与えられたのである。

結果的に、参加者は三カ年計画に対する 12 の修正案、2 つの決議草案、そしてフォーラム宣言に関する 6 つのトピックを可決させた。三カ年計画における全ての戦略的優先事項が上書きされた。修正案の大半はユースの参画を増やす事、そしてスカウティングを今日のユースに対してさらに一層包括的に、並びに適切にすることに関連する物であった。提議草案ではそれに加え、「神へのつとめ」とパレスチナスカウト連盟の会員地位状況について格段の強調がなされた。最終宣言は主に未来の **WSYF**、そしてユースアドバイザーシステムを取り扱うものとなった。

# インターイベント

## 概要

フォーラム及びスカウト会議に参加するスカウトを対象として「発見」「自然」「つながり」をテーマとして行われる **2泊3日** のプログラム。参加者は期間を通じてユネスコの世界遺産見学やスロベニアの文化体験など多くのプログラムに参加することができる。

### シュコツィヤン鍾乳洞

首都のリュブリャナから南西へ約 **82** キロ離れたカルスト地方にあり、約 **3** 億年の歴史を持つ鍾乳洞。紀元前 **3000～1700** 年には人が住んでいたとされ、**1986** 年には世界遺産に登録されている。

ここでは、長い年月をかけて大自然が作り上げた洞窟の壮大さ、そこで過去に生活を送っていた人々を想像し多くの感動を受けた。

### ピラン

スロベニアの南西、クロアチアとの国境に位置する小さな港町。**13～18** 世紀にヴェネチア共和国の支配下にあったことから町の広場周辺にはゴシック、ルネサンス、バロック様式の古い建物が立ち並ぶ。山には住宅が立ち並び海へとすぐつながる様子はどこか日本の長崎に似ていて落ち着いた雰囲気や美しい風景がとても気持ちのいい町。

ここで参加者は、スカウトスキルを用いた謎解きゲームに挑戦し、交流を深めた。

### ストリートフェスティバル

世界会議が行われた首都のリュブリャナの旧市街の広場で行われたこのプログラムは、参加者それぞれが母国で行われるポピュラーなスタントを持ち寄り国の垣根を越えて交流を深めるプログラム。国のある地域の色がそれぞれ出ていてとても楽しいプログラムだった。

# 第 40 回世界スカウト会議

期間 8 月 11 日～15 日

役務 ブース運営奉仕、セッション参加、全体会参加  
23WSJ のプレゼンテーション奉仕

## 派遣員所感

小栗悠貴

私達は 8 月 2 日から 17 日まで「第 12 回世界スカウトユースフォーラム派遣」に参加しました。

70 カ国以上から青年スカウト約 170 人が参加し、スカウト活動に関する討議・情報交換や文化交流などを行いました。また、世界規模で行われているこの運動の戦略や意思決定の過程に参加することで、私達のスカウト活動に関する視野は大きく広がりました。

世界中の仲間達は、歴史や文化が全く違うそれぞれの環境で日々活動をしています。しかし、皆が目指しているのは「より良き社会」という共通の未来であることを実感することが出来ました。

私が派遣を通じて一番印象に残っているのは、まさにテーマの「One Tree, Many Branches」です。歴史や文化が全く違うそれぞれの環境で、スカウトの仲間達が日々活動をしている。しかし、皆が目指しているのは **Creating a Better World** です。フォーラムのディスカッション中、食事中、移動のバスの中など派遣期間中に数えきれないほど実感しました。

この他にも体験したこと、伝えたいことは沢山あります。私達の派遣はまだ終わっていません。

笠原 俊祐

8 月 13 日、夜 9 時を過ぎた頃、スロベニアの首都リュブリャナの小さなマクドナルドに、アジアのユースが集まった。モルディブ代表のスカウトが、会議の合間や夜などによく話していたメンバーに「一度集まって話そう」と呼びかけた、その日の夜のことだった。「アジア圏のユース代表のフォーラム・会議への貢献について、どう思う？」彼は私たちが椅子に着くと同時に切り出した。カンボジアから来たスカウトが考えを述べるのに続いて、韓国、タイ、マレーシア、香港、台湾のスカウトがそれぞれの意見を述べた。会話が進むにつれてある事実が浮き彫りになった。それは、草案の作成・議決、世界会議においての提案において、ほぼ全ての決定的な言動はヨーロッパ地域から参加したユースによって行われていたということだった。「我々の力でどうにかしよう。」一時間以上の白熱した議論の末、カンボジアのスカウトが会議を締めくくった。

世界スカウトユースフォーラム・世界スカウト会議の期間には、フォーマル・インフォーマルな場で様々なことを話し合ったが、この友人の輪の中でのみ起こった出来事が今でも鮮明に記憶に残り、私のスカウト活動への取り組みを変える決定的なものとなった。

私たちは”代表”としてこのイベントに参加した。残念ながら、今回初めて参加した私たちにとって、その”代表”としての役目を果たせたか、日本・アジア・世界のスカウト運動に貢献できたのか、という点では疑問が残る。青年の参画が進み、地域としてのつながりも強いヨーロッパ地域のスカウトにとっては、フォーラムは連盟の運営に関わる大切なイベントだ。私たちアジアのスカウトの多くは、青年参画の違った形としてユース議会をもっている。ユースフォーラムとユース議会が密接な関係にあることは必然的であるし、そうであって初めて私たちが”代表”としての価値ある参画ができるのではないだろうか。このフォーラムへの参加は我々”代表”の役目の始まりにすぎないと私は考える。まさにカンボジアのスカウトが言ったように、”我々の力で”スカウト運動をよりよくしていくきっかけとしたいと思う。

#### 木村直登

ユースフォーラムおよび世界会議は、私にとって初めて大規模な世界行事への参加であった。この派遣について知った当初、筆者は日韓フォーラムのようなものを想定していた。日韓フォーラムでは日韓のスカウトが決められたテーマについて話し合い、グループごとに話をまとめ発表する。英語にあまり自信のない人は通訳を通してディスカッションを進めて行くというのが日韓フォーラムである。

一方、ユースフォーラムであるが、ひとつのテーマについて話を進めて行くというのは日韓フォーラムと共通しているものの、規模及び扱われるトピック、そして世界のスカウト活動に及ぼす影響力が圧倒的に異なっている。日韓フォーラムは二国間で行われるものであるが、ユースフォーラムでは多国間(今回は六十カ国であった)でのディスカッションが繰り広げられる。それだけにディスカッションにおける発言のトピックも多種多様で大変刺激となった。また、ディスカッションにおけるトピックのレベルアップに伴い、必要とされる英語力も大幅にレベルアップする。ユースフォーラム開始時に筆者はまるで国連のようだと感じた。各国の代表が集い、意見を出し合う。自分の意見を示さないものはディスカッションから置いていかれてしまう。しかしながら、もちろん参加者全員がネイティブレベルの英語を話せるわけではない。必要なのは相手の考えを理解して、自分の意見を発信する力だけである。英語力に関しては参加者が共に助け合い、英語を得意としない者も議論に参加できる環境が作られていた。

さて、そんなユースフォーラムで強く感じたのが、日本のユース達がもっと活発に活動できないだろうかということである。フォーラムではセッションの時間が設けられ、各地域の代表等が自らの地域で展開されているユースのプロジェクトを紹

介していた。どれも大規模なものであり、多国間で行われているもの、そして社会に大きく貢献しているものなど多種多様なプロジェクトが紹介されていた。ここで一つの疑問が生じる。日本のユースは何をしているのだろうか。日本のユースが展開するプロジェクトが最も有名なのは **CJK** プロジェクトではないだろうか。中国(C)、日本(J)、韓国(K)の三か国のユースがカンボジアなどの国に赴き、様々な奉仕をするというプロジェクトである。だが、他に何かプロジェクトはあるのだろうか。

また、各国代表との話でも他国におけるユースが連携し、活発に活動していることがわかった。日本には全国スカウトローバース会議(**RCJ**)が存在しており、表面上全国のローバーの連携が実現されている。しかし実際のところ、**RCJ** の影響力は小さく、**RCJ** についてよく知らないローバーが多数存在するというのが筆者の見解である。実際に筆者はフォーラム参加前、**RCJ** についてあまり知らなかった。これでは日本のローバーが実際には連携できていないことになってしまう。そこで必要なのが **RCJ** の活動を盛んにし、**RCJ** の影響力を強めることによって全国ローバーの連携を強めることではないだろうか。

中嶋路央

今回、私が感じたのは世界との「差」であった。今回のディスカッションを通してそれぞれの参加者が持つ自分たちのビジョン。そしてそれぞれが持つスキルの高さには大変驚いた。まず、自分と海外スカウトとの間に感じたことは視野の広さだった。自分は世界の間でも自分の意見、自分のビジョンをはっきりと持って発言ができると、日本にいるときは確信をしていた。しかし現実とはそうではなく、海外スカウトは自分の数倍、自国のことをよく知り、世界の中で自分たちの国がどういった地位にいて何をしているのか。をはっきりと述べていた。それ対し自分はそこまで国際社会における日本の活動や日本国内のことを多くを語ることができなかった。それは偏に国際社会における自国とはどういったものなのか。をよく知らないだけでなく、自分の英語力にも大きな問題があると痛感した。私は今までいくつかの海外派遣に参加をしてきて海外派遣そのものには少し自信さえあった。しかし今回の派遣で必要とされる英語のスキルはこれまでの派遣とは比べ物にならないレベルのものであり、中学英語をマスターした程度では全くと言っていいほどそのスピードに太刀打ちができなかった。なぜなら自分は英語を理解し日本語に訳し、日本語の意見を考えた後、英語に訳して発言をしていたからだ。それはただ英語を喋れないというだけのことでなく、ディスカッションに参加できないということだった。ディスカッションに参加できないのは非常に辛いことで、私にとって初めての経験だった。しかし今回を機に今まで以上に海外に興味を持つことができたこと、また日本のユースとしてあの場に立てたことは非常にいい刺激になった。

また、今回の経験を生かし、これからのローバー活動をもっともっと有意義なものにしていきたいと強く思った。

2015 年は世界ジャンボリーが日本にやってくる年である。今回の派遣中にも日本から来たことを伝え、必ずと言っていいほどジャンボリーの話題が上った。それ



は、今、世界中のボーイスカウトが日本に目を向けている証拠だと思う。そしてこれを機に日本のユースが海外にも目を向けることで、これから先のユースフォーラムでは日本のユースがよりレベルアップし、世界に向けてもっともっと発言ができればと思うし、自分自身年齢的にもう一度チャンスがあるので、機会があれば是非挑戦してみたいと思う。

## おわりに

第12回世界スカウトフォーラムは無事成功しました。そして世界中の連盟から集められたフォーラム参加者によって世界最高の教育的なイベントであることが再確認されました。それらを裏付けるように各国の連盟は若い参加者がフォーラムに参加することを望んでいます。

しかし、それにも関わらずフォーラムの後の世界会議に参加しなかったスカウトが **23%**を下回ったのは重要なことです。

私たちは今後の **NSO** に対して彼らのような若い代表の世界会議への参加を求めます。

フォーラムの4つのメインテーマをみてください。これらのテーマはスカウトが、彼らの共同体にとって必要不可欠であり、その中で前向きな影響を与えていることを示しています。フォーラムの手続きの規定を今回変更しました。フォーラムでは提言文だけでなく、決議の草案や最終宣言も採用されるべきだからです。

この変更の目的は、参加者が世界会議において意思決定をする準備ができるようにすることである。

参加者は **2014～2017** 年の世界 **3** ヶ年計画の改定と決議に対する直接的な参加権を与えられていると感じることができました。

これにより彼らは次の **3** 年に向けて世界のスカウト活動がやらなければならないことを実際に形作りました。

インターナショナルチームは、このフォーラムを参加者が宗教、文化の壁を乗り越えて活動できるように作られました。

**WOSM** の将来について話し合う間に多くのユニークな意見が出されました。

かつて **B-P** は言いました。個々の段階を踏むには一人ひとりの個人に合った努力が必要だと。

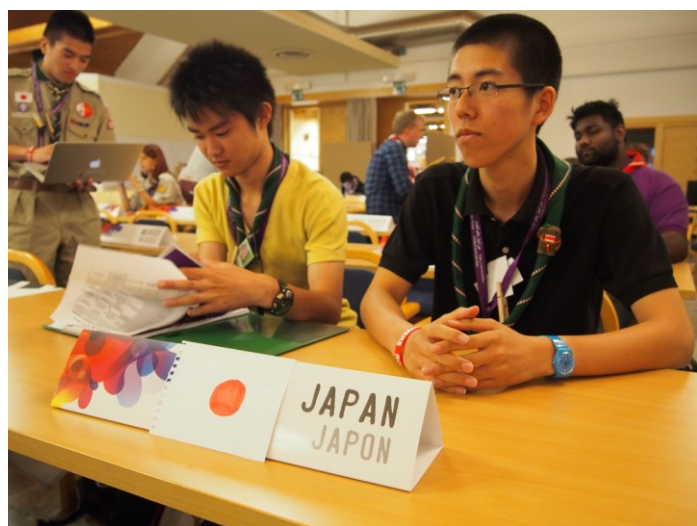
## 提言

全国ローバースカウト会議への提言

平成 **27** 年度全国ユースフォーラムに向けた提言

- 討議内容は事前に参加者のニーズを考慮すること。
- 討議内容、「日本連盟の事業計画」「**RCJ** 運営委員会の事業計画」（**WOSM** の **3** 年計画）へのコメントを入れるべし。
- **RCJ** 運営委員の任務にユースフォーラムへの参加を含める。
- **RCJ** の中に海外とのつながりを常時持つ組織を作る。
- 「トレーニングセッション」（日本連盟、**WOSM** について）を設ける。

## 記録写真







## 参考

公式ウェブサイト 「World Scout Conference 2014」

Facebook ページ 「World Scout Conference and Youth Forum 2014 in Slovenia」

Twitter アカウント 「@Slovenia2014」

「12TH WORLD SCOUT YOUTH FORUM REPORT」

「12TH WORLD SCOUT YOUTH FORUM Documento1~6」